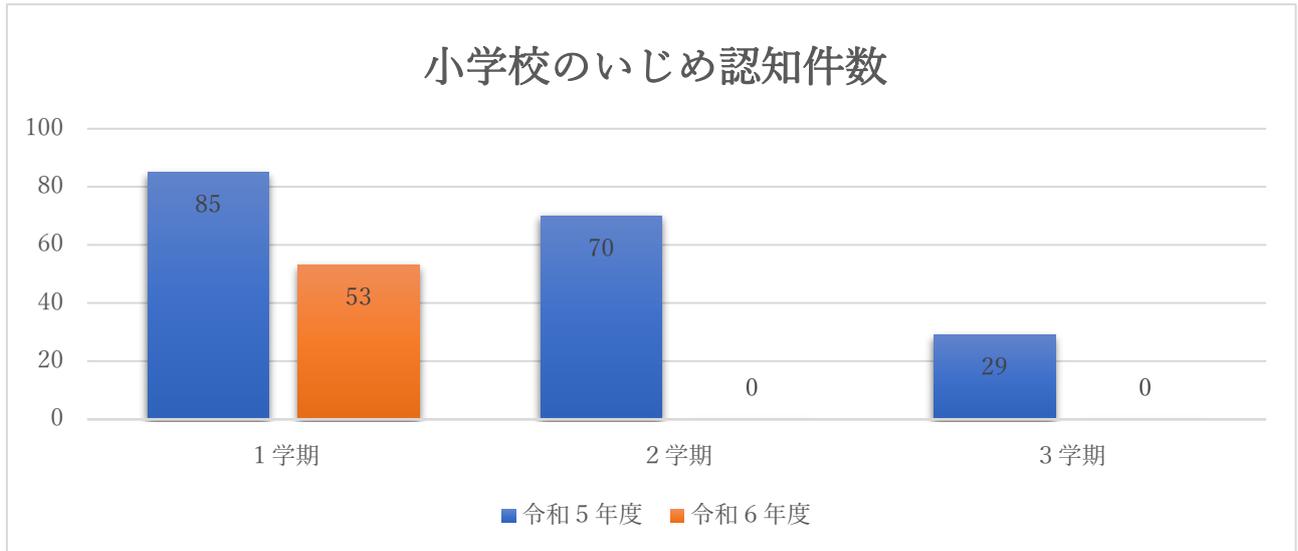


市立小・中学校のいじめの現状について

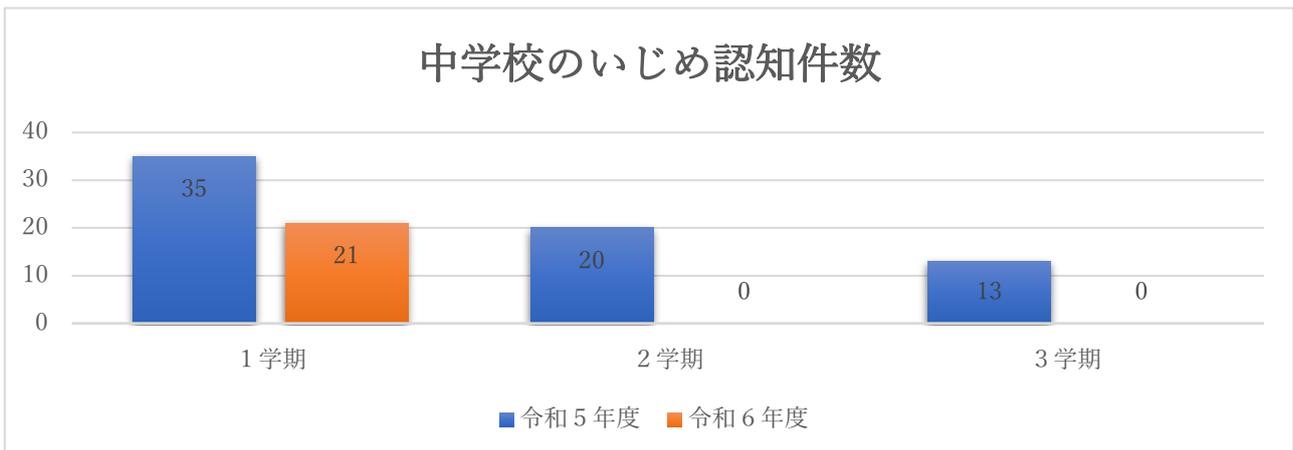
1. 福島市立小学校のいじめの認知件数の推移



	1学期	2学期	3学期
令和5年度	85	70	29
令和6年度	53		

令和5年度1学期と比較して、令和6年度1学期は32件の減であった。新年度で環境が変わる1学期は特に留意する必要があるが、親和的な学級集団となるよう学年はじめから尽力してきた学校の取組が功を奏している。各学校においては、今後もいじめの疑いがある場合には速やかに組織で対応し、必要に応じて積極的に認知していくようにする。

2. 福島市立中学校のいじめの認知件数の推移



	1学期	2学期	3学期
令和5年度	35	20	13
令和6年度	21		

令和5年度1学期と比較して、令和6年度1学期は14件の減であった。小学校同様、環境が変わる1学期は特に留意する必要があるが、きめ細かな生徒指導となるよう尽力してきた学校の取組が功を奏している。各学校においては、今後もいじめの疑いがある場合には速やかに組織で対応し、必要に応じて積極的に認知していくようにする。

3. 今年度のいじめ問題対応に関して強化している取組

- (1) 教育委員会会議において、重大事態の記録を基に事例研究の協議を行い、いじめ問題に係る知見の蓄積を図った。
- (2) 学校教育課内にいじめ問題に係る専門の部署を設け、担当を配置した。
- (3) 市のいじめ防止等に関する条例の改正及びいじめ防止基本方針の改定を受け、各学校のいじめ防止基本方針を改定し、全学校がホームページに掲載し周知した。
- (4) 校長対象のいじめ対応研修において、いじめを理由とした欠席が1日でもあった場合は速やかに報告するよう周知するとともに、その対応における校長の役割の重要性について共通理解を図った。
- (5) 教頭対象のいじめ対応研修において、重大事態の記録を基にグループ協議を行い、対応において重視すべきことの共通理解を図った。
- (6) 一人一台端末を使用して、毎日登校した段階で心の健康状態を児童自身が入力して教師に伝えることができるコンテンツを導入し、子どもの悩みを表出できる方法を増やした。
- (7) いじめ防止サポートチームの定例会において、重大事態となるおそれのあった事案を基にグループ協議を行い、対応において重視すべきことの共通理解を図った。